

Part3 座談会・移動通信市場の変化を読む

固定・移動融合の構造改革を

通信市場が大きな構造転換の時を迎えている。4Gへの進化、OTTとの凌ぎ合いのなかで、通信キャリアは新たなビジネスモデルを確立していくことができるのか。3人の識者に展望を語ってもらった。

構成◎坪田弘樹(本誌)

これからの移動通信市場を展望するうえで核心となるポイントは何か。どういった点に最も注目されているのか、お聞きします。

岸田 スマートフォンプームによって、通信事業者を中心とした従来のエコシステムが大きく変わりつつあります。

最も重要なのは主役が変わったことです。従来は、端末もネットワークも、そこで利用されるコンテンツ等も含めて通信キャリアがトータルに設計しながらサービスを行っていました。

しかし今や、アップルやグーグルが主役になりつつあります。彼らが主導権を持つことで、悪く言えば市場が振り回されている状態になっています。

今は、新しいエコシステムを作っていく過渡期ですが、これがどういう形で落ち着くのかを注視しています。

森川 私も同じで、例えばアップルのような垂直統合型のビジネスと、通信キャリアとの力関係がどう推移していくのかに興味があります。

例えば、キャリアはHTML5をかなり注視しています。これを使えば、

OSや端末、つまりアップルやグーグルのプラットフォームに依存しないアプリ提供の幅が広げられるからです。アップルやグーグル等が主導権を持ったまま進むのか、あるいはキャリアが盛り返すのか。そのパワーバランスに注目しています。

服部 「OTT(Over the Top)」と呼ばれるプレイヤーのビジネススタイルと、キャリアのビジネスモデルの凌ぎ合いは今後数年続いていくでしょう。それが、通信市場を大きく左右します。

ネットワークを資源として収益を上

げる従来のビジネスとはまったく異なるモデルと対抗、あるいは協調しながら新しいキャリアの姿を作っていかなければならないわけですね。

服部 通信料金で収益を上げるモデルはすでに崩れ始めています。定額制もその要因の1つです。

トラフィックの増大がネットワークに多大な負荷を与えていますが、根本的な解決策はまだ見えていません。収容能力を高めるために設備を増強するのは大切ですが、それでは解決にはなりません。

ネットワークの付加価値をこれ以上落とさず、むしろ高めていくために抜本的な対策を打つ。そうした方向に舵を切っていかなければならない大切な時期にきています。

【1】トラフィック爆発とネットワークの進化

WiFiオフロードへの期待は間違い

いくつかポイントができました。それでは、基盤であるネットワークインフラの進化という点から話を進めましょう。これについては、トラフィック爆発への対応と、ネットワークそのものの付加価値向上という2点が焦点になります。まず、トラフィック対策については、WiFiオフロードが解決策としてクローズア

プされています。

服部 一般の見通しとは違って、私はWiFiに注目するのは間違いだと思っています。WiFiは基本的には、インドアで使うものです。アクセスポイント(AP)をいくら設置してもカバーできるエリアはごくわずかに過ぎませんし、複数の事業者が競争し合っ